

別紙 1 (報告様式)

農林漁業現地事例情報「食料自給率向上に資する取組事例」

行動計画の項目に基づいた分類：オ 国産農産物に対する消費者の信頼の確保の取組

取組名：アイガモを利用した有機栽培における消費者の信頼確保の取組
取組主体：瀬棚町有機栽培開発部会 (北海道・せたな町)

1 取組の背景

せたな町で、稲作と肉用牛生産を営む平田克則氏は、山間部での規模拡大には限界があると考え、今後の農業経営のあり方を思案し、同町役場に相談したところ、町の農業アドバイザーを通じ、付加価値の高い有機栽培米を生産するためにアイガモを利用してはどうかと提案を受けた。

そこで、平成9年からアイガモを利用した有機栽培に取り組み、12年には有機JASの認証を受け、20年現在では、農家5戸による瀬棚町有機栽培開発部会として、食の安全・消費者の信頼確保に取り組んでいる。

2 取組の具体的内容

作付面積は約6haで、アイガモを利用した有機栽培米「ほしのゆめ」を中心に、有機栽培酒造用米「吟風(ぎんぷう)」を作付けしており、「吟風(ぎんぷう)」を使用した米焼酎「風海鳥(かざみどり)」及び純米酒「吟子物語」を販売している。

アイガモは、大阪府にある高橋人工孵(ふ)化場より、生後2日前後のひなを購入し、一週間程度環境に適應させた後、水稻の生長をみながら、10a当たり10羽を目安として毎年6月1日前後から約2か月間水田に放している。

水田に放たれたアイガモは、雑草や害虫を食べ、雑草の種や芽をかき出し、水をかき回し酸素を供給するなど、農薬を使用しない栽培に大きく貢献している。

また、同町は畜産業が盛んであることから、家畜排せつ物である牛のふん尿を堆肥化した有機質肥料を主に利用し、化学肥料を使用しない栽培を実践している。

3 取組の具体的効果

取組開始後、同町の協力により町内小学校の学校給食米として使用されたことから、安定した販売先の確保ができ、地産地消や食育の推進につながった。

慣行栽培より生産コストがかかり、販売価格は高くなるものの(10kg:4,800円)、地道な販売活動を続けた結果、食の安全・消費者の信頼確保に取り組む姿勢に共感した固定客ができ、安定した収入につながっている。

また、毎年1回、北海道有機農業フェアに参加し、消費者との交流を図りながら米の消費拡大及び有機農業の普及・啓発に取り組んでいる。

4 今後の展開方向

労働力が限られていることから、現状の規模を維持することがまず重要と考えているが、そのなかで、有機栽培米や純米酒などの加工品を販売していくことで、国産農産物の魅力をPRし、食料自給率の向上につなげていきたい。

山間地域で規模拡大が難しい地域でも、有機農業等で農産物に付加価値を付けて販売することは可能であり、普及活動に努め有機農業の取組を拡大することで、町のPRにもつなげていきたい。

現在では、収穫量が慣行栽培とほとんど変わらないため、アイガモを利用した有機栽培の普及の成果は大きいと考えている。

5 取組に係る問題点と解決策

アイガモを、キツネやカラスなどの外敵から保護するため、電気牧柵で水田を囲い外敵を防ぎ、夜は小屋の中に引き入れるなど努力を続けている。

また、平成19年度（20年3月）まで町内小学校の学校給食米として提供を行っていたが、同町の財政状況が厳しくなったことから20年度は契約が出来なかった。食育の推進の観点からも、学校給食米への提供はぜひ続けたいので、早期の納入再開に向け、粘り強く交渉を行っていきたい。



画像

アイガモは、害虫や雑草を食べ、水田を元気よく泳ぎ回り、酸素を供給し、農薬を使用しない栽培に大きく貢献します。

【情報収集官署】 北海道農政事務所 八雲統計・情報センター

連絡先：0137-63-3383